

第4回北海道SDGs推進懇談会 議事概要

1 日 時：平成30年12月19日（水）14：00～16：00（かでの2・7 610会議室）

2 出席者：[構成員] 柏村 章夫 小泉 雅弘 菅原 亜都子 野吾 奈穂子 吉中 厚裕

【五十音順、敬称略】

【5名出席】

3 主な発言内容

<「北海道SDGs推進ビジョン」策定について>

- ビジョンを多様な主体と共有する基本的な指針とするなら、道が意見を聞いて全て判断するというのではなく、対話の中で作り出して行くことが前提だと思う。
- 案に対する意見を反映していただいたところについてはお礼申し上げる。一方、反映されなかった部分については、今後も見直していくものだと認識しているので、これからも道民の皆様と議論していきたい。
- 従来手法では多様な意見を政策などに反映するのは難しいが、今回のビジョンづくりが、道庁にとっての「変革」のきっかけになることを期待。

<「北海道SDGs推進ビジョン」の推進について>

- SDGsの取り組みを進めていくにあたって、指標や推進状況などの確認に多様な視点からのチェックは必要。
- 道庁の中でも実務的なことを行う担当部局はそれぞれあると思うので、そういった方も巻き込んで、様々な視点からの声を行政に反映させていく機会が増えていくとよい。
- 今後、SDGs関連イベントなどの年間計画を、北海道SDGs推進懇談会のメンバーなり北海道SDGs推進ネットワーク会員なりと、幅広に共有できるような形を作って欲しい。
- SDGsのベースは人権だと思う。そのことを意識した上で、SDGsを推進して欲しい。
- 今回ビジョンを作成したが、重要なことはこの後。SDGsを北海道で達成するために、皆で具体的な取り組みをしていくということだと思う。その中でも道庁の役割はやはり大きいものがあるので、これからも協働させていただいて、一緒に進めていきたい。

<北海道SDGs推進ネットワークについて>

- SDGsをいかに自分事に落とし込んで動ける人を増やすかというところが重要。北海道SDGs推進ネットワークに加入している団体だけではなく、各業界の方などからも意見を聞く場を作れば、より多様な意見を聞くことができ、より進んでいくと思う。
- ネットワークの現在の会員を見ると、例えば、女性関係の団体は1団体しかなく、充分でない。参画する機会が平等に与えられていても、中々、参画しにくいという方もいる。そういった方々にどうやって参加してもらうかを考える工夫が必要。まずは多様な主体が参画しているか、足りていない部分はないかということ把握して欲しい。足りていない部分については、皆で一緒に考えていきたい。
- ネットワーク会員が相互に交流できる仕組みづくりとして、色々なテクノロジーを使った仕組みを、その分野を得意とする人達の協力も得ながら作っていけばよいと思う。
- ネットワークが閉ざされたものにならないように、誰もがメールアドレスさえ登録すれば、たくさん情報が自動的に入ってくるというような仕組みづくりを考えていただければと思う。
- 北海道は広く、時間的・地理的な制約もあり、直接、顔を合わせることが難しい場合も多いと思うので、ネットワークへの入会の際に、最初に興味のある、女性や先住民族などのような多様な主体ごとのグループを選び、自由にオンライン上でディスカッションができるような仕組みがあると、多様性の確保という点でも、構成像全体を見渡しやすくなると思う。